

## 相愛大学研究シーズ集

シーズ名	非西洋文化圏の音楽における旋法の探究
所 属	音楽学部 音楽学科／大学院 音楽研究科
氏 名	松本直祐樹
<p>【概要】</p> <p>1970年代にフランスで提唱された「スペクトル技法」を援用して、微分音(いわゆるドレミでは表現できない微細な音高)を含む音の堆積手法を、この10年来追求してきた。その研究は本学の研究論集に掲載されて、一定の結果をみる事ができた。いま現在の興味は微分音を含む旋法に移り、ルーマニアの民謡から、イラクを中心とした中東のマカームに至った。音楽の歴史は、ある音から異なる音高の音をどのように分割するかの歴史でもある。時系列と地域性を関連づけて立体的に論じることができるなら、私が作曲家として何をすべきか、自己の存在意義を見出すことができるかもしれない。しかし、その道のりは途方もないと感じている。</p>	
キーワード	作曲／現代音楽／微分音／旋法